

輸出事業計画

※申請者名：新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会、
品目：りんどう

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・全国の栽培面積の約 4 分の 1、出荷数量の約 3 割を占め、日本一の生産量と高い品質を誇る。
- ・JA生産部会員全員を社員とする（一社）安代リンドウ開発が、八幡平市花き研究開発センターと共同研究契約を結び、オリジナル品種を開発。切り花30品目、鉢物 9 品種が実用化され、近年では鉢物の「八重咲りんどう」が注目されている。
- ・海外の 5 つ星ホテルでの花飾り等のPR活動、展示会等へ積極的に参加し、高い評価を得ている。
- ・国際競争力を高めるため、主要品種については国際条約に基づく登録保護を行っている。また、知的財産の輸出として、ニュージーランド、チリ、ルワンダにおける現地栽培契約の締結により、ロイヤリティの回収も行っている。

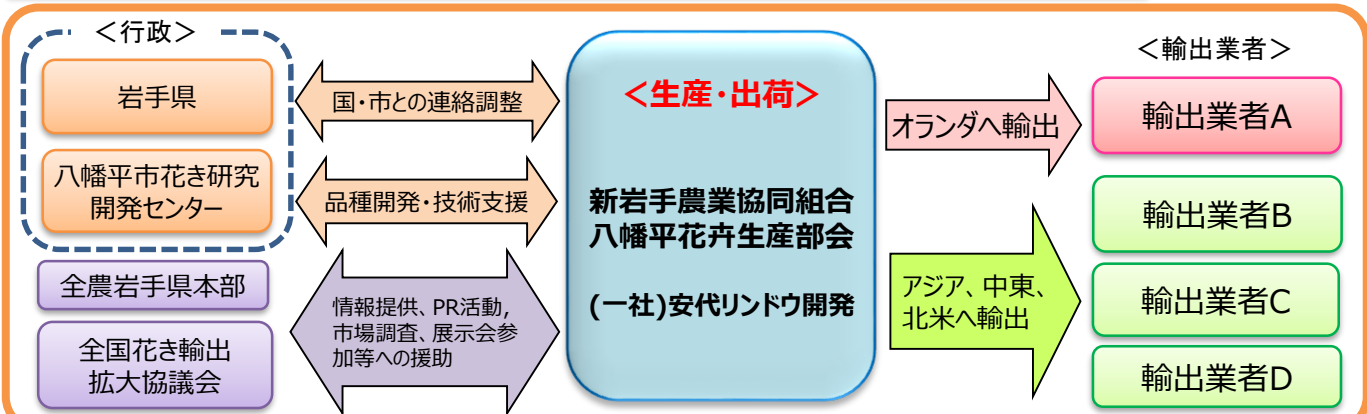
【課題】

- ・高齢化による離農や、栽培を始めるための初期投資額が高額であることから新規栽培も伸び悩んでいるため、栽培面積や生産量の増加を図ることが困難。
- ・国際航空便運賃が高く、国内販売に比べ赤字になるリスクが高いことから輸送コストの削減を図る。
- ・GAPやMPSなどの国際的な環境認証を取得していない。
- ・国内需要期後の海外需要期に合わせた栽培管理と出荷体制の確立。

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・新規栽培者への説明会や八幡平市等で資材代の助成を行い、法人化や、担い手による規模拡大により、生産面積の維持拡大を図る。また、GAP、MPS等の国際環境認証取得を視野に入れた生産指導を行う。
- ・輸送コストの削減のため航空会社と輸送費を協議し、外注していた輸出向けリパック作業を自らが行うなど経費の見直しを行う。
- ・開花調整による海外需要期に合わせた栽培管理と出荷体制の確立を図る。また、主要輸出国のオランダ向けの輸出について、輸出業者を変更することにより効率化を図り、輸出拡大につなげる。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

切り花（りんどう）	現状（令和元年）	目標（令和8年）
輸出額	4 2 1 万円	2, 0 3 0 万円
輸出量	150,740本	350,000本
輸出先国	オランダ アジア圏	オランダ アジア圏